

農業者・JA・障がい者施設の連携で雇用の確保と働き手不足を解消

サポートぱすてる(中標津町)



サポートぱすてる利用者の皆様

◇【取組の経緯と概要】

- ◆平成25年6月に障がい者就労施設(農業作業他)として「サポートショップくれぱす」(就労継続支援A型事業所)を開設(令和2年2月、「サポートぱすてる」に名称変更)。
- ◆施設利用者の受託業務を探していたところ、JA中標津が運営する選果場で、大根とブロッコリーを洗浄・選別・梱包する作業を受託(作業期間:8月中旬から11月上旬の日曜日を除く期間)。
- ◆平成29年にJA標津の仲介のもと、酪農家の作業を請け負い、牛舎や搾乳パララーの清掃、春先(雪解け時期)の牧草地の枝拾い、また、TMRセンター(牛の餌を混合する施設)での作業受託を開始。



ブロッコリーの選別作業



牛舎の清掃作業



たまねぎの梱包作業



敷料交換作業

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 障がい者が担うことが難しいとされている農業分野の対応へ不安があった。
- ⇒農業者の理解もあり、1日当たり4時間でできる作業内容をパッケージ化し、施設利用者のレベルに合わせた内容の作業を委託側が用意してくれた。

【組織等の概要】

- 事業所名:サポートぱすてる(就労継続支援A型事業所)
- 法人名:企業組合くれすとぱすてる
- 代表者:理事長 大佛 司
- 指導員数:17名
- 利用者数:65名
- 事業内容:酪農及び野菜関連に係る農作業ほか

【取組の成果】

- JA計根別・JA中標津・JA標津の所属組合員15戸、その他の法人3戸から、酪農及び野菜関連の農作業を受託している。
- JA中標津から受託しているばれいしょの収穫作業は、農業者からの信頼も得て、10年続けることができている。
- 利用者の能力に見合った作業を安全かつ的確に行ってきたことで、委託される作業の幅が増え、必要とされる施設となった。
- 農業分野に加え、林業分野では、11~12月の期間に枝払い作業、水産分野では、ホタテ漁のかご上げ作業を受託するようになった。

【今後の展望】

- 施設の稼働能力的に受け入れ間口を今以上に増やすことは困難であるが、施設利用者における仕事の精度と作業スピードを向上させることで、新規を含め多くの業務を受託できるようになれば、受委託双方にとって有益になると考えることから、更なる努力をしていきたい。